

鈴木善幸先生にお別れ

町民ら740人が参列献花

七月十九日に九十三歳で死去された山田町名誉町民の鈴木善幸先生の「町民お別れの会」が九月十一日、町中央公民館大ホールで行われ、本町はじめ近隣の市町村から七百四十人が参列しました。祭壇には穏やかな表情の遺影、正二位の位階と大勲位菊花大綬章の勲章が飾られ、参列者一人ひとりが献花。生涯にわたり漁業の振興に情熱を注ぎ、国の発展に大きな功績を残した故人に別れを告げました。



町民お別れの会で参列者にお礼の言葉を述べる鈴木俊一氏＝写真上＝／祭壇に花を手向け別れを告げる参列者＝丸写真＝



式に先立ち、東京で執り行われた鈴木家密葬と内閣・自由民主党合同葬儀の様子、故人の在りし日の姿を記録したビデオが上映されました。

式では参列者全員で黙とうをささげた後、主催者を代表して沼崎喜一町長が「善幸先生の偉大な業績は語り尽くせません。しかし、賜りました数々の遺徳を後世に語り継ぐことはできません。わが町から一人の政治家が誕生し、数々の業績を重ね総理大臣を極めたこと、そして町民はわがこととして喜び合い、名誉町民として顕彰したことを、末永く歴史にとどめ、語り継ぐことをあらためてお誓いします。善幸先生、ようやく愛してやまない古里の山田湾が一望できる丘でお休みになれることになりました。長い間ご苦労さまでした。これからもどうか天上にあって漁業の振興、古里の発展、国家の発展、そしてご遺族の安寧を見守ってください」と式辞を述べました。

続いて佐々木良一町議会議長、経済産業界を代表して阿部金一山田漁連会長がお別れの言葉を述べ、沼崎町長、鈴木善幸先生の妻さち夫人ら遺族、県議会議員、町議会議員の皆さんが代表献花を行いました。

遺族を代表して長男で衆議院議員の鈴木俊一氏は「父は典型的な明治の人であり、我慢強く決して弱音を吐くことはありませんでした。また典型的な岩手の男であり、派手なことは苦手でしたが、与えられた仕事をもくもくとこなす父でした。亡くなった七月十九日はくしくも海の日。水産業の振興のために生涯をかけた父の生きざまを思うとき、何か深い因縁を感じます。父は生前、頂いた称号の中で誇りにしていたものが二つありました。一つは大日本水産会から頂いた『水産翁』という称号。そしてもう一つは皆さまから頂いた山田町の名誉町民の称号です。父は眠りにつくわけですが、これからは山田の一隅からこよなく愛した古里山田町、そして岩手県の末永い発展を見守り続けてくれることと思います」とお礼の言葉を述べました。

最後に参列者一人ひとりが別れを惜しみながら遺影に献花。地域の発展に多大な功績を残した故人のめい福を祈りました。